

まつぼっくり

学校教育目標「支え合い・学び合い、多様な達成感を体感し、ふるさとを愛する児童の育成」



宇城市立三角小学校
学校だより 第11号
文責 校長 西村羊治
令和7年5月14日

全校児童で授業

5月13日（火）1時間目、体育館にて今年度の校内研修で取り組む「対話を中心にした授業実践」を行いました。授業に取り組んだのは、6年生と担任の本村教諭です。1年生にも見てもらうので、教材の選定も低学年にも適した「おむすびころりん」です。右にある文章になります。めあては、子どもたちから引き出した「工夫して音読しよう」です。1の場面、2の場面に同じ文章が出てきます。「おむすびころりん すっとんとん。ころころころりん すっとんとん。」です。「この1の場面と2の場面に出てくる言葉は

【二のばめん】
むかし むかしの はなしだよ。
やまの はたけを たがやして、おながが すいた おじいさん。

そろそろ おむすび たべようか。つつみを ひろげた そのとん、
おむすび ひとつ ころがつて、ころころ ころりん かけだした。

まで までと おじいさん おいかけて いつたら おむすびは、
はたけの すみの あなたの なか、すっとんとんと とびこんだ。
のぞいて、みたが まつからで、みみを あてたら きこえたよ

おむすびころりん

これは、これは、おもしろい。
ふたつめ ころんと ころがすと、きこえる きこえる おなじうた。
おむすび ころりん すっとんとん。
ころころ ころりん すっとんとん。
おながが すいてる ことなんか、わすれて しまつた おじいさん。



同じなのか違うのか？」が、中心発問となります。ここから一人一人の思考が始まります。次にグループでの対話活動です。その対話には、小グループの良さがあります。全体で発表するより勇気が少しでいいのです。そして、多くの児童の表現の場が確保されます。6年生は3人ぐらいのグループでほぼ全員が発言していました。他の学年は6年生の近くに行き、その対話の

様子をうかがいます。自信が付いたところで全体での発表です。「同じ言葉だから同じです。」や「おじいさんの気持ちが違うから違います。」などいろいろな意見が出ます。授業をしている6年生だけではなく周りで参観している

1年生
から5

年生も自分事として考え発表がなされました。もう全校児童での授業です。見ている私もワクワク・ニヤニヤしながら参観させていただきました。子どもたちが、しっかり考え方々と発表する。もちろん、手を挙げることができない子、発表することができない子もいます。そして、それは悪いことではありません。

一人一人が今できることを意欲的に主体的に楽しみながら発揮し、支え合い・学び合いながら学習を深め、少しずつ少しずつ成長していくべきなのです。



笑顔で対話



全校児童が体育館に集結

と発表する。もちろん、手を挙げることができない子、発表することができない子もいます。そして、それは悪いことではありません。

一人一人が今できることを意欲的に主体的に楽しみながら発揮し、支え合い・学び合いながら学習を深め、少しずつ少しずつ成長していくべきなのです。

今年度の校内研修のテーマは、下記の予定で、子どもたちの力を引き出していくきます。

対話を中心にした授業実践（案）

～自分の考えを持ち、質問したり、教えあったりしながら、互いに学び合う児童の姿を目指して～（案）